

平成28年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成28年度調査）の  
調査票案について

- 夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査 (右下頁)
  - ・ 調査概要 . . . . . 3頁
  - ・ 施設票 . . . . . 5頁
  - ・ 医師票 . . . . . 17頁
  - ・ 看護師長票 . . . . . 22頁
  - ・ 薬剤部責任者票 . . . . . 30頁
  - ・ 病棟薬剤師票 . . . . . 34頁
  - ・ 依頼状 . . . . . 38頁
  
- かかりつけ医・かかりつけ歯科医に関する評価等の影響及び紹介状なしの大病院受診時の定額負担の導入の実施状況調査
  - ・ 調査概要 . . . . . 39頁
  - ・ かかりつけ医票 . . . . . 41頁
  - ・ 小児科票 . . . . . 50頁
  - ・ 大病院票 . . . . . 55頁
  - ・ 選定療養票 . . . . . 61頁
  - ・ かかりつけ歯科医機能票 . . . . . 67頁
  - ・ 歯科患者票 . . . . . 77頁
  - ・ 依頼状 . . . . . 80頁
  
- 重症度や居住形態に応じた評価の影響調査等を含む在宅医療・訪問看護の実施状況調査
  - ・ 調査概要 . . . . . 81頁
  - ・ 在宅医療票 . . . . . 83頁
  - ・ 訪問看護票 . . . . . 92頁
  - ・ 在宅歯科医療票 . . . . . 100頁
  - ・ 依頼状 . . . . . 111頁
  
- 精神疾患患者の地域移行・地域生活支援の推進や適切な向精神薬の使用の推進等を含む精神医療の実施状況調査
  - ・ 調査概要 . . . . . 112頁
  - ・ 病院票 . . . . . 114頁
  - ・ 診療所票 . . . . . 126頁
  - ・ 患者票 . . . . . 132頁
  - ・ 依頼状 . . . . . 138頁

○ <u>後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査</u>	(右下頁)
・ 調査概要	139頁
・ 保険薬局票	141頁
・ 診療所票	151頁
・ 病院票	159頁
・ 医師票	165頁
・ 患者票	170頁
・ 依頼状	176頁

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）  
「夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の  
負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査」  
調査の概要（案）

■ 調査目的

平成 28 年度診療報酬改定では、医療従事者の負担を軽減する観点から、医師事務作業補助者や看護補助者の配置に係る評価、特定集中治療室等における薬剤業務に対する評価、栄養サポートチームにおける歯科医師との連携に係る評価等について見直しが行われた。また、看護職員の月平均夜勤時間に係る要件等の見直しや夜間の看護体制の評価等が行われた。

本調査では、このような診療報酬改定の内容を踏まえ、その影響を検証するために、関連した加算等を算定している保険医療機関における診療体制やチーム医療の実施状況等について調査を行う。

<調査のねらい>

- ・ 医療従事者の勤務状況（医師、薬剤師、看護職員、看護補助者）の把握
- ・ 医療従事者の負担軽減のための施設としての取組内容やその効果の把握
- ・ 看護職員の夜間の勤務状況（夜勤回数、夜勤時間等）の把握
- ・ 夜間の看護職員の勤務負担軽減の取り組み状況やその効果の把握
- ・ チーム医療の実施状況と効果の把握 / 等

■ 調査対象及び調査方法

○調査対象（案）

①施設調査

- ・ 1) 全国の病院の中から無作為抽出した 750 施設。2) 病院勤務医・看護職員の負担の軽減を要件とする診療報酬項目並びにチーム医療の推進に関する項目を届け出ている病院の中から無作為抽出した 500 施設程度。1) 2) 合わせて 1,250 施設程度。

②医師調査

- ・ 上記①の施設調査の対象施設に 3 年以上勤務する医師。1 施設当たり 4 名程度を調査対象とする。

③看護師長調査

- ・ 上記①の施設調査の対象施設の病棟看護師長。1 施設当たり 5 名程度を調査対象とする。
- ・ 内訳は特定入院料から 1 病棟、一般病棟から 2 病棟、療養病棟が 1 病棟、精神病棟が 1 病棟とするが、該当病棟がない場合は一般病棟の抽出数を増やすこととする。

#### ④薬剤師調査

##### <薬剤部責任者票>

- ・上記①の施設調査の対象施設における薬剤部責任者1名を対象とする。

##### <病棟薬剤師票>

- ・上記①の施設調査の対象施設において、病棟薬剤師が配置されている病棟のうち、無作為に抽出した4病棟を対象とする。
- ・ICU等の集中治療室等の病棟の中から1病棟、一般病棟の中から1病棟、療養または精神病棟の中から1病棟、集中治療室以外の特定入院料の病棟の中から1病棟とするが、該当病棟がない場合は一般病棟の抽出数を増やすこととする。

#### ○調査方法（案）

- ・施設調査については、自記式調査票の郵送配布・回収とする。
- ・医師調査、看護師長調査、薬剤師調査については、施設調査の対象施設を通じて調査票を配布し、施設票と合わせて施設でとりまとめの上、調査事務局宛の専用返信封筒により郵送で回収する。

#### ■ 調査項目

※調査票（案） 参照

#### ■ 調査スケジュール（案）

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査票案の作成	→							
調査客体の抽出・名簿作成		→						
調査票印刷・封入・発送			→					
調査期間				→				
督促状印刷・発送				→				
調査票回収・検票				→				
データ入力 データクリーニング					→			
集計・分析						→		
報告(案)の作成						→		
追加分析								→
報告書のとりまとめ							→	
調査検討委員会の開催		★					★	

ID	
----	--

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）  
 夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の  
 負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査 施設票（案）

- ※ この施設票は、医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設におけるチーム医療の実施状況や、医療従事者の負担軽減に関する取組やその効果、今後の課題等についてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、( ) 内には具体的な数値、用語等をご記入ください。( ) 内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない質問については、平成 28 年 10 月 31 日時点の状況についてご記入ください。
- ※ 「平成 27 年 10 月」と記載の質問については平成 27 年 10 月 31 日時点または平成 27 年 10 月 1 か月間の状況を、「平成 28 年 10 月」と記載の質問については平成 28 年 10 月 31 日時点または平成 28 年 10 月 1 か月間の状況をご記入ください。

1. 貴施設の概要についてお伺いします。

①開設者 ※○は1つだけ	01. 国                      02. 公立                      03. 公的                      04. 社会保険関係団体 05. 医療法人              06. 個人                      07. その他の法人	
②承認等の状況 ※あてはまる番号すべてに○	01. 高度救命救急センター                      02. 救命救急センター 03. 災害拠点病院                                  04. へき地医療拠点病院 05. 総合周産期母子医療センター              06. 地域周産期母子医療センター 07. 小児救急医療拠点病院                      08. 特定機能病院 09. 地域医療支援病院                              10. 二次救急医療機関 11. 専門病院（主として悪性腫瘍、循環器疾患等の患者を入院させる保険医療機関であって高度かつ専門的な医療を行っているものとして地方厚生（支）局長に届け出たもの） 12. 上記のいずれも該当しない	
③標榜診療科 ※あてはまる番号すべてに○	01. 内科                      02. 皮膚科                      03. 小児科                      04. 精神科 05. 外科                      06. 泌尿器科                      07. 脳神経外科                      08. 整形外科 09. 眼科                      10. 産婦人科・産科              11. リハビリテーション科              12. 放射線科 13. 麻酔科                      14. 救急科                      15. 歯科（歯科口腔外科等含む）	
④DPC 対応状況 ※○は1つだけ	01. DPC 対象病院・準備病院である 02. DPC 対象病院・準備病院ではない	
⑤貴施設における、平成 27 年 10 月及び平成 28 年 10 月の紹介率、逆紹介率をご記入ください。		
	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1) 紹介率 <sup>注1</sup>	%	%
2) 逆紹介率 <sup>注1</sup>	%	%

注1. 紹介率：(紹介患者数+救急患者数)÷初診の患者数×100

逆紹介率：逆紹介患者数÷初診の患者数×100

※初診の患者数、紹介患者数、逆紹介患者数、救急患者数の定義については初診料及び外来診療料に係る診療報酬上の定義に従ってください。一般病床が 200 床未満の病院の場合も地域医療支援病院で用いられる定義に従ってください。



⑨平成 27 年 10 月及び平成 28 年 10 月に、貴施設で従事している医療従事者等の常勤・非常勤（常勤換算）別の職員数をご記入ください。

	平成 27 年 10 月		平成 28 年 10 月	
	常勤	非常勤 (常勤換算) 注4	常勤	非常勤 (常勤換算) 注4
1) 医師	人	人	人	人
(うち) 外来業務のみを担当する医師			人	人
2) 歯科医師	人	人	人	人
3) 保健師・助産師・看護師	人	人	人	人
(うち) 一般病棟勤務の看護師	人	人	人	人
4) 准看護師	人	人	人	人
(うち) 一般病棟勤務の准看護師	人	人	人	人
【再掲】看護職員(看護師・准看護師)のうち、 短時間正職員制度利用者数	人	人	人	人
(うち)週 30 時間以上の者	人	人	人	人
【再掲】看護職員(看護師・准看護師)のうち、 夜勤専従者数	人	人	人	人
5) 看護補助者	人	人	人	人
6) 歯科衛生士	人	人	人	人
7) 薬剤師	人	人	人	人
【再掲】病棟専任(または担当)薬剤師注5	人	人	人	人
8) 臨床検査技師	人	人	人	人
9) 管理栄養士	人	人	人	人
10) 理学療法士	人	人	人	人
11) 作業療法士	人	人	人	人
12) 言語聴覚士	人	人	人	人
13) 医師事務作業補助者	人	人	人	人
14) MSW(社会福祉士等)	人	人	人	人
15) その他	人	人	人	人
16) 合計	人	人	人	人

【再掲】⑨-1 非常勤の薬剤師の実人数(在籍者数) ( ) 人 ※平成 28 年 10 月 31 日

注 4. 非常勤職員の常勤換算の計算方法：貴施設の 1 週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第 1 位までご記入ください。

例：1 週間の所定勤務時間が 40 時間の病院で、週 4 日(各日 5 時間)勤務の非常勤職員が 1 人いる場合

非常勤職員数(常勤換算) = (5 時間×4 日×1 人) ÷ 40 時間(週所定労働時間) = 0.5 人

注 5. 診療報酬上の施設基準の届出の有無に関わらず、実態として病棟業務専任(または担当)の薬剤師数をご記入ください。

⑩平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月の各 1 か月間における貴施設の入院延べ患者数、外来延べ患者数、分娩件数、全身麻酔による手術件数について、それぞれ該当する人数または件数をご記入ください。

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
(1) 入院延べ患者数注6	人	人
1) 一般病棟(特定入院料を除く)における入院延べ患者数	人	人
2) 時間外・休日・深夜に入院した延べ患者数	人	人
3) 救急搬送により緊急入院した延べ患者数	人	人
4) 新入院患者数	人	人
5) 退院患者数	人	人
(2) 外来延べ患者数	人	人
1) 初診の外来患者数	人	人
2) 再診の外来延べ患者数	人	人
3) 緊急自動車等により搬送された延べ患者数	人	人
4) 時間外・休日・深夜加算の算定件数	件	件
5) 時間外選定療養費の徴収件数	件	件

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
(3) 分娩件数	件	件
(4) 全身麻酔による手術件数	件	件

注 6. 入院延べ患者数：毎日 24 時現在の在院患者数（即日退院患者数を含む）を 31 日分合計した患者数。

## 2. 各診療報酬項目の施設基準の届出状況及び算定件数等についてお伺いします。

①次の施設基準等について「届出があるもの」（平成 28 年 10 月末時点）の該当数字を○で囲んでください。また、届出がある場合、「届出時期」（該当する方に○）、平成 27 年 10 月及び平成 28 年 10 月の各 1 か月間の算定件数をお答えください。

施設基準等	届出があるもの	届出時期		算定件数	
		平成 28 年 3 月以前	平成 28 年 4 月以降	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1) 総合入院体制加算 1	1	1	2		
2) 総合入院体制加算 2	2	1	2		
3) 総合入院体制加算 3	3	1	2		
4) 25 対 1 急性期看護補助体制加算 (看護補助者 5 割以上)	4	1	2		
5) 25 対 1 急性期看護補助体制加算 (看護補助者 5 割未満)	5	1	2		
6) 50 対 1 急性期看護補助体制加算	6	1	2		
7) 75 対 1 急性期看護補助体制加算	7	1	2		
8) 夜間 30 対 1 急性期看護補助体制加算	8	1	2		
9) 夜間 50 対 1 急性期看護補助体制加算	9	1	2		
10) 夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算	10	1	2		
11) 夜間看護体制加算（急性期看護補助体制加算）	11	1	2		
12) 夜間看護体制加算（看護補助加算）	12	1	2		
13) 看護職員夜間 12 対 1 配置加算 1	13	1	2		
14) 看護職員夜間 12 対 1 配置加算 2	14	1	2		
15) 看護職員夜間 16 対 1 配置加算	15	1	2		
16) 看護補助加算 1	16	1	2		
17) 看護補助加算 2	17	1	2		
18) 看護補助加算 3	18	1	2		
19) 夜間 75 対 1 看護補助加算	19	1	2		
20) 看護職員配置加算	20	1	2		
21) 看護補助者配置加算	21	1	2		
22) 感染防止対策加算 1・2	22	1	2	件	件
23) 精神科リエゾンチーム加算	23	1	2	件	件
24) 栄養サポートチーム加算	24	1	2	件	件
25) 栄養サポートチーム加算 歯科医師連携加算					件
26) ハイリスク分娩管理加算	26	1	2	件	件
27) 呼吸ケアチーム加算	27	1	2	件	件
28) 病棟薬剤業務実施加算 1	28	1	2	件	件
29) 病棟薬剤業務実施加算 2	29				件
30) 救命救急入院料 注 3 加算	30	1	2	件	件
31) 脳卒中ケアユニット入院医療管理料	31	1	2	件	件
32) 小児特定集中治療室管理料	32	1	2	件	件
33) 総合周産期特定集中治療室管理料	33	1	2	件	件
34) 小児入院医療管理料 1	34	1	2	件	件
35) 小児入院医療管理料 2	35	1	2	件	件

施設基準等	届出があるもの	届出時期		算定件数	
		平成 28 年 3 月以前	平成 28 年 4 月以降	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
36) 移植後患者指導管理料	36	1	2	件	件
37) 糖尿病透析予防指導管理料	37	1	2	件	件
38) 院内トリアージ実施料	38	1	2	件	件
39) がん患者指導管理料 1	39	1	2	件	件
40) がん患者指導管理料 2	40	1	2	件	件
41) がん患者指導管理料 3	41	1	2	件	件
42) 画像診断管理加算 1	42	1	2	件	件
43) 画像診断管理加算 2	43	1	2	件	件
44) 手術における休日加算 1	44	1	2	件	件
45) 手術における時間外加算 1	45	1	2	件	件
46) 手術における深夜加算 1	46	1	2	件	件
47) 処置における休日加算 1	47	1	2	件	件
48) 処置における時間外加算 1	48	1	2	件	件
49) 処置における深夜加算 1	49	1	2	件	件
50) 認知症ケア加算 1	50				件
51) 薬剤管理指導料	51	1	2	件	件
52) 薬剤総合評価調整加算					件
53) 特定薬剤治療管理料				件	件
54) 歯科医療機関連携加算 (診療情報提供料 I の加算)				件	件
55) 周術期口腔機能管理料 ※歯科診療報酬の算定件数を記入してください。				件	件
56) 周術期口腔機能管理後手術加算				件	件
57) 在宅患者訪問看護・指導料 3				件	件
58) 在宅患者訪問薬剤管理指導料				件	件
59) 在宅患者訪問褥瘡管理指導料	59	1	2	件	件

②平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月末時点における、**医師事務作業補助体制加算**の届出状況としてあてはまるものに○をつけてください。※○はそれぞれ1つずつ

1) 平成 27 年 10 月	00. 届出をしていない 01. 医師事務作業補助体制加算 1      02. 医師事務作業補助体制加算 2 →届出している場合の内訳 01. 100対1    02. 75対1    03. 50対1    04. 40対1 05. 30対1    06. 25対1    07. 20対1    08. 15対1
2) 平成 28 年 10 月	00. 届出をしていない→6ページの質問③へ 01. 医師事務作業補助体制加算 1      02. 医師事務作業補助体制加算 2 →届出している場合の内訳 01. 100対1    02. 75対1    03. 50対1    04. 40対1 05. 30対1    06. 25対1    07. 20対1    08. 15対1

▶【届出をしている施設の方】 ②-1 現在の体制の届出時期はいつですか。	平成 (    ) 年 (    ) 月	
【届出をしている施設の方】 ②-2 医師事務作業補助者の配置人数 (常勤換算) を配置場所別にご記入ください。 ※平成 28 年 10 月 31 日 ※複数か所勤務している場合、勤務時間で人数を按分してそれぞれに記入してください。	1) 外来	人
	2) 病棟	人
	3) 医局・事務室等	人
	4) 合計	人



<b>【すべての施設の方】</b> ④貴施設の入院患者に対する口腔機能管理や栄養サポートチームの取組に参加している 院外の歯科医師は何人いますか。	( ) 人
---	-------

**【すべての施設の方】**  
 ⑤貴施設では栄養サポートチームに歯科医師が参加していますか。 ※〇は1つだけ

- 01. 院内の歯科医師が参加している
- 02. 院外の地域の歯科医師が参加している
- 03. 栄養サポートチームはあるが、歯科医師は参加していない
- 04. 栄養サポートの取組は実施していない

**【上記⑤で 01. または 02. (歯科医師が参加) と回答した施設の方】**

⑤-1 歯科医師が栄養サポートチームに参加することでどのような効果がありましたか。具体的にお書きください。

--

**【上記⑤で 03. または 04. (歯科医師と連携していない) と回答した施設の方】**

⑤-2 歯科医師と連携していない理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに〇

- 01. 栄養サポートチーム加算についてよく知らないから
- 02. 歯科医師連携加算についてよく知らないから
- 03. クリニカルパスに歯科との連携が組み込まれていないから
- 04. 歯科医師との情報共有が困難だから
- 05. 連携を行う際の歯科医師の受け入れ態勢が確保できていないから
- 06. 栄養サポートチームで実施する内容や効果が不明であるから
- 07. 対応できる歯科医療機関の情報がないから
- 08. その他 (具体的に )

**【すべての施設の方】**  
 ⑥平成 28 年 10 月末時点において、**処置・手術の休日・時間外・深夜加算 1**の施設基準の届出をしていますか。  
 ※〇は1つだけ

- 01. 届出をしている
- 02. 届出をしていない→8ページの質問 3. ①へ

**【上記⑥で 01. (届出をしている) と回答した施設の方】**

⑥-1 **処置・手術の休日・時間外・深夜加算 1**はどのような対象で届出をしていますか。 ※〇は1つだけ

- 01. 病院全体で届出をしている→8ページの質問 3. ①へ
- 02. 病院全体での届出はしていない

**【上記⑥-1で 02. (病院全体での届出はしていない) と回答した施設の方】**

⑥-1-1 **処置・手術の休日・時間外・深夜加算 1**の届出診療科の状況をお答えください。

1) 処置・手術の休日・時間外・深夜加算 1 の算定を行う診療科数	( )
2) 病院の標榜診療科数	( )

**【上記⑥-1で 02. (病院全体での届出はしていない) と回答した施設の方】**

⑥-1-2 病院全体での届出をしていない理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに〇

- 01. 協力を得られない診療科があるから
- 02. 届出が不要と考えられる診療科があるから
- 03. 処置・手術の休日・時間外・深夜加算 1 の効果が不明であるから
- 04. その他 (具体的に )

## 3. 医師の勤務状況等についてお伺いします。

①貴施設の医師の勤務形態として該当するものをお選びください。※あてはまる番号すべてに○																
01. 主治医制 <sup>注7</sup>	02. 交代勤務制 <sup>注8</sup>	03. その他（具体的に )														
注7. 主治医制：勤務が交代しても主治医が替わらない制度。 注8. 交代勤務制：勤務の交代に伴い担当医が替わる制度。複数主治医制・チーム制（数名のチームにつき、1人の緊急呼び出し当番を置き、休日・時間外・深夜の対応を一元化しており、緊急呼び出し当番の翌日は休日としている）の場合も含む。																
②平成28年3月31日以前と平成28年4月以降それぞれについて、貴施設で支給されている診療実績にかかる手当（※診療実績に応じて支払われる手当のみ）は何ですか。※あてはまる番号すべてに○ *03. 時間外手当、04. 休日手当、05. 深夜手当については、手術・処置・内視鏡検査の実施件数に応じたものとする																
1) 平成28年3月31日以前	00. ない      01. 当直手当      02. オンコール手当      03. 時間外手当*      04. 休日手当* 05. 深夜手当*      06. 上記03.～05.以外の時間外手当・休日手当・深夜手当 07. その他（具体的に )															
2) 平成28年4月以降	00. ない      01. 当直手当      02. オンコール手当      03. 時間外手当*      04. 休日手当* 05. 深夜手当*      06. 上記03.～05.以外の時間外手当・休日手当・深夜手当 07. その他（具体的に )															
③平成28年4月以降に、貴施設で増額した診療実績にかかる手当はありますか。※あてはまる番号すべてに○ *03. 時間外手当、04. 休日手当、05. 深夜手当については、手術・処置・内視鏡検査の実施件数に応じたものとする																
01. ある→増額したもの <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: none;">{</td> <td style="border: none;">11. 当直手当</td> <td style="border: none;">12. オンコール手当</td> <td style="border: none;">13. 時間外手当*</td> <td style="border: none;">14. 休日手当*</td> <td style="border: none;">15. 深夜手当*</td> <td style="border: none;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">16. 上記13.～15.以外の時間外手当・休日手当・深夜手当</td> <td style="border: none;">17. その他</td> <td colspan="4" style="border: none;"></td> </tr> </table>			{	11. 当直手当	12. オンコール手当	13. 時間外手当*	14. 休日手当*	15. 深夜手当*	}		16. 上記13.～15.以外の時間外手当・休日手当・深夜手当	17. その他				
{	11. 当直手当	12. オンコール手当	13. 時間外手当*	14. 休日手当*	15. 深夜手当*	}										
	16. 上記13.～15.以外の時間外手当・休日手当・深夜手当	17. その他														
02. ない																
④貴施設における平成27年10月、平成28年10月の医師1人あたりの平均勤務時間（1か月間）、1人あたりの平均当直回数（1か月間）、連続当直を行った医師数をご記入ください。※小数点以下第2位を切り捨てし、小数点以下第1位まで																
<b>常勤の医師</b>	平成27年10月	平成28年10月														
1) (実績) 1人あたり平均勤務時間 <sup>注9</sup> /月	.      時間	.      時間														
2) (実績) 1人あたりの平均当直回数/月	.      回	.      回														
3) (実績) 連続当直を行った医師数/月	人	人														
<b>非常勤の医師</b>	平成27年10月	平成28年10月														
4) (実績) 1人あたり平均勤務時間 <sup>注9</sup> /月	.      時間	.      時間														
5) (実績) 1人あたりの平均当直回数/月	.      回	.      回														
6) (実績) 連続当直を行った医師数/月	人	人														

注9. 勤務時間：所定労働時間の他、残業時間も含まれます。

## 4. 看護職員の勤務状況や看護補助者の配置等についてお伺いします。

①貴施設の病棟看護職員 <sup>注10</sup> の勤務形態として主たる勤務形態（最も多くの看護職員に適用されている勤務形態）をお選びください。※○は1つだけ			
01. 2交代制 <sup>注11</sup>	02. 変則2交代制 <sup>注12</sup>	03. 3交代制 <sup>注13</sup>	04. 変則3交代制 <sup>注14</sup>
05. 上記01～04の混合	06. 日勤のみ	07. 夜勤のみ	
08. その他（具体的に )			

注10. 看護職員：保健師、助産師、看護師、准看護師を指します。

注11. 2交代制：日勤・夜勤が12時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務。

注12. 変則2交代制：日勤8時間、夜勤16時間等といった日勤・夜勤の各勤務帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

注13. 3交代制：日勤・準夜勤・深夜勤が8時間ずつの交代勤務。

注14. 変則3交代制：日勤9時間、準夜勤7時間、深夜勤が8時間等といった日勤・準夜勤・深夜勤の各勤務帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

②病棟勤務の看護職員<sup>注10</sup>について、平成27年10月、平成28年10月1か月間の夜勤時間数別の人数をご記入ください。  
※夜勤専従者は含めないでください。

	1) 一般病棟、療養病棟（入院基本料1を除く）、結核病棟又は精神病棟の勤務者		2) 左記1)のうち、7対1及び10対1病棟の勤務者		3) 左記1)のうち、7対1・10対1病棟以外の病棟勤務者	
	平成27年10月	平成28年10月	平成27年10月	平成28年10月	平成27年10月	平成28年10月
～ 8時間未満	人	人	人	人	人	人
8時間以上～ 16時間未満	人	人	人	人	人	人
16時間以上～ 24時間未満	人	人	人	人	人	人
24時間以上～ 32時間未満	人	人	人	人	人	人
32時間以上～ 40時間未満	人	人	人	人	人	人
40時間以上～ 48時間未満	人	人	人	人	人	人
48時間以上～ 56時間未満	人	人	人	人	人	人
56時間以上～ 64時間未満	人	人	人	人	人	人
64時間以上～ 72時間未満	人	人	人	人	人	人
72時間以上～ 80時間未満	人	人	人	人	人	人
80時間以上～ 88時間未満	人	人	人	人	人	人
88時間以上～ 96時間未満	人	人	人	人	人	人
96時間以上～112時間未満	人	人	人	人	人	人
112時間以上～120時間未満	人	人	人	人	人	人
120時間以上～128時間未満	人	人	人	人	人	人
128時間以上～136時間未満	人	人	人	人	人	人
136時間以上～144時間未満	人	人	人	人	人	人
144時間以上～	人	人	人	人	人	人
合計人数	人	人	人	人	人	人

③貴施設では、平成28年4月～10月までの間に、月平均夜勤時間72時間要件を満たせないため、「月平均夜勤時間超過減算」を算定している、あるいは算定していた病棟がありますか。該当する病棟がある場合は、「月平均夜勤時間超過減算」の算定期間をご記入ください。 ※あてはまる番号すべてに○

01. ない→10ページの質問④へ

02. 一般病棟入院基本料→算定期間：平成28年（ ）月～（ ）月

03. 療養病棟入院基本料2.5対1→算定期間：平成28年（ ）月～（ ）月

04. 結核病棟入院基本料→算定期間：平成28年（ ）月～（ ）月

05. 精神病棟入院基本料→算定期間：平成28年（ ）月～（ ）月

06. 障害者施設等入院基本料→算定期間：平成28年（ ）月～（ ）月

【平成28年4月～10月までの間に月平均夜勤時間超過減算の算定病棟がある・あった施設の方】

③-1 貴施設で、月平均夜勤時間72時間要件を満たせない、あるいは満たせなかった理由について該当するものをお選びください。※あてはまる番号すべてに○

01. 患者の重症度が高く、夜間の看護体制を充実する必要があるため

02. 看護職員の突然の退職・休職のため

03. 当該病棟配置の看護職員数がもともと少ないため

→ (01. 病床規模が小さいため

02. 看護配置基準が低いため )

04. その他 (具体的に )

④貴施設では、平成 28 年 4 月以降、**夜勤時間特別入院基本料**を算定したことがありますか。 ※○は1つだけ

01. ある→  
 a) 算定期間：( ) か月  
 b) 医療勤務環境改善支援センターへの相談状況：  
 (01. 既に相談した 02. 今後相談する予定 03. 相談していない (相談予定なし))

02. ない

⑤貴施設では、看護補助者の配置はどのような状況でしょうか。 ※○は1つだけ

01. 十分配置できている→質問5. ①へ

02. 看護補助者の必要量を満たすだけ配置できていない

【上記⑤で「02. 看護補助者の必要量を満たすだけ配置できていない」と回答した施設の方】

⑤-1 看護補助者の必要量を満たすだけ看護補助者を配置できていないのはなぜですか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 募集をしても集まらないため  
 02. 人件費がないため  
 03. その他 (具体的に )

## 5. 医師の負担軽減策に関する取組状況等についてお伺いします。

①貴施設における医師の負担軽減策についてお伺いします。  
 (1) 貴施設で医師の負担軽減策として実施されている取組に○をつけてください。 ※あてはまる番号すべてに○  
 (2) 上記(1)で○をつけた取組について、実施した時期としてあてはまる番号に○をつけてください。  
 (3) 上記(1)で○をつけた取組について、医師の負担軽減策の効果としてあてはまる番号に○をつけてください。  
 ※(1)は1列の中であてはまる番号すべてに○、(2)と(3)は1行につきそれぞれ○は1つずつ

	(1)		(2) 実施した時期			(3) 負担軽減効果				
	取組に○	実施されている	平成 28 年 3 月 31 日以前	平成 28 年 4 月 ~10 月 30 日	平成 28 年 10 月 31 日時点	効果がある	どちらかといえ ば効果がある	ない どちらともいえ	どちらかといえ ば効果がない	効果がない
(記入例) 4) 医師事務作業補助者の病棟への配置	④	→	1	②	3	1	②	3	4	5
1) 医師業務の看護師・助産師との分担	1	→	1	2	3	1	2	3	4	5
2) 医師業務の薬剤師との分担	2	→	1	2	3	1	2	3	4	5
3) 医師業務のその他コメディカルとの分担	3	→	1	2	3	1	2	3	4	5
4) 医師事務作業補助者の病棟への配置	4	→	1	2	3	1	2	3	4	5
5) 医師事務作業補助者の外来への配置	5	→	1	2	3	1	2	3	4	5
6) 常勤医師の増員	6	→	1	2	3	1	2	3	4	5
7) 非常勤医師の増員	7	→	1	2	3	1	2	3	4	5
8) 短時間正規雇用の医師の活用	8	→	1	2	3	1	2	3	4	5
9) 外来診療時間の短縮	9	→	1	2	3	1	2	3	4	5
10) 初診時選定療養費の導入	10	→	1	2	3	1	2	3	4	5
11) 地域の他の医療機関との連携体制の構築・強化	11	→	1	2	3	1	2	3	4	5
12) 医師における交代勤務制の導入	12	→	1	2	3	1	2	3	4	5

	(1)		(2) 実施した時期			(3) 負担軽減効果				
	取組に○	実施されている	平成 28 年 3 月 31 日以前	平成 28 年 4 月 ~10 月 30 日	平成 28 年 10 月 31 日時点	効果がある	どちらかといえ ば効果がある	どちらともい えない	どちらかとい え効果がない	効果がない
13) 連続当直を行わない勤務シフトの導入	13	→	1	2	3	1	2	3	4	5
14) 当直翌日の休日	14	→	1	2	3	1	2	3	4	5
15) 当直翌日の業務内容に関する配慮	15	→	1	2	3	1	2	3	4	5
16) 当直医師の増員	16	→	1	2	3	1	2	3	4	5
17) 予定手術等の術者の当直に対する配慮	17	→	1	2	3	1	2	3	4	5
18) 業務の量や内容を把握した上で、特定の個人に業務が集中しないような勤務体系	18	→	1	2	3	1	2	3	4	5
19) 電子カルテとオーダーリングシステムの活用	19	→	1	2	3	1	2	3	4	5
20) 上記 19) 以外の ICT を活用した業務省力化、効率化の取組	20	→	1	2	3	1	2	3	4	5

②上記①以外の取組以外で、貴施設で実施している勤務医負担軽減策で、効果のある取組があれば、具体的にお書きください。

--

③以下の診療報酬項目は、病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善を要件としています。これらの診療項目は、勤務医の負担軽減及び処遇改善に向けた取組として効果があると考えますか。

(1) 貴施設で算定している項目に○をつけてください。※あてはまる番号すべてに○

(2) 上記(1)で○をつけた項目について、病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に関する効果としてあてはまる番号に○をつけてください。 ※それぞれ○は1つずつ

	(1)		(2) 負担軽減及び処遇改善効果				
	算定している項目に○		効果がある	どちらかといえ ば効果がある	どちらともい えない	どちらかとい え効果がない	効果がない
(記入例) 2) 医師事務作業補助体制加算	②	→	1	②	3	4	5
1) 総合入院体制加算	1	→	1	2	3	4	5
2) 医師事務作業補助体制加算	2	→	1	2	3	4	5
3) 急性期看護補助体制加算	3	→	1	2	3	4	5
4) 看護職員夜間配置加算	4		1	2	3	4	5
5) 精神科リエゾンチーム加算	5	→	1	2	3	4	5
6) 栄養サポートチーム加算	6	→	1	2	3	4	5
7) 呼吸ケアチーム加算	7	→	1	2	3	4	5
8) 病棟薬剤業務実施加算	8	→	1	2	3	4	5
9) 移植後患者指導管理料	9	→	1	2	3	4	5
10) 糖尿病透析予防指導管理料	10	→	1	2	3	4	5





③ 1年前と比較してあなたの勤務状況はどのように変化しましたか。この病院での勤務状況について回答してください。 ※○は各1つずつ			
1) 勤務時間	1. 長くなった	2. 変わらない	3. 短くなった
2) 外来の勤務状況 (診療時間内)	1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
3) 救急外来の勤務状況 (診療時間外)	1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
4) 長時間連続勤務の回数	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
5) 当直の回数	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
6) 当直時の平均睡眠時間	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
7) オンコールの回数	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
8) 当直翌日の勤務状況	1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
9) 総合的にみた勤務状況	1. 改善した	2. どちらかという改善した	3. 変わらない
	4. どちらかという悪化した	5. 悪化した	6. その他 (具体的に )

### 3. あなたの行っている業務とその負担感等についてお伺いします。

① 貴診療科 (あなたの所属する診療科) における医師の負担軽減策についてお伺いします。 (1) 貴診療科で医師の負担軽減策として実施されている取組に○をつけてください。 (2) 上記(1)で○をつけた取組について、実施した時期としてあてはまる番号に○をつけてください。 (3) 上記(1)で○をつけた取組について、医師の負担軽減策の効果としてあてはまる番号に○をつけてください。 ※(1)は1列の中であてはまる番号すべてに○、(2)と(3)は1行につきそれぞれ○は1つずつ										
	(1)		(2) 実施した時期			(3) 負担軽減効果				
	○	い	平成 28 年 3 月 31 日 以 前	平成 28 年 4 月 ~10 月 30 日	平成 28 年 10 月 31 日 時 点	効果 が あ る	い え ば 効 果 が あ る	ど ち ら か と い え ば 効 果 が あ る	ど ち ら か と い え ば 効 果 が あ る	ど ち ら か と い え ば 効 果 が あ る
(記入例) 4) 当直翌日の業務容に関する配慮	④	→	1	②	3	1	②	3	4	5
1) 術者の予定手術前の当直の免除	1	→	1	2	3	1	2	3	4	5
2) 手術の第一助手の予定手術前の当直の免除	2	→	1	2	3	1	2	3	4	5
3) 当直翌日を休日とする勤務体制	3	→	1	2	3	1	2	3	4	5
4) 当直翌日の業務内容に関する配慮	4	→	1	2	3	1	2	3	4	5
5) 連続当直を行わない勤務シフトの導入	5	→	1	2	3	1	2	3	4	5
6) 当直担当医師の増員	6	→	1	2	3	1	2	3	4	5
7) 交代勤務制 <sup>注1</sup> の実施	7	→	1	2	3	1	2	3	4	5
8) 業務の量や内容を把握した上で、特定の個人に業務が集中しないような勤務体系の導入	8	→	1	2	3	1	2	3	4	5
9) 外来診療時間の短縮	9	→	1	2	3	1	2	3	4	5
10) 医師事務作業補助者の配置・増員	10	→	1	2	3	1	2	3	4	5
11) 薬剤師による処方提案等	11	→	1	2	3	1	2	3	4	5
12) ICU等の集中治療室等への薬剤師の配置	12	→	1	2	3	1	2	3	4	5
13) 薬剤師による投薬に係る入院患者への説明	13	→	1	2	3	1	2	3	4	5
14) 薬剤師による投薬に係る外来患者への問合せ対応や服薬指導	14	→	1	2	3	1	2	3	4	5
15) 臨床検査技師による検査に係る患者への対応、検査方法・結果説明	15	→	1	2	3	1	2	3	4	5

注1. 交代勤務制：夜勤明けを休みとするなど医師が交代で勤務することで長時間の連続勤務を軽減する制度。

②貴診療科におけるあなたの業務負担感と業務分担の状況等についてお伺いします。

- (1) 各業務の業務負担感について該当する番号をご記入ください。
- (2) 各業務の他職種との業務分担の取組状況について該当する番号に○をつけてください。※それぞれ○は1つ
- (3) 医師のみが実施している各業務(上記(2)で「3」に○がついた場合)について、今後、他職種への分担をどのように考えていますか。該当する番号に○をつけてください。※それぞれ○は1つ

	(1) 業務負担感	(2) 分担取組状況			→	(3) 他職種への期待			
		主に他職種が実施している	他職種の補助を受けている	医師のみが実施している		他職種に実施してほしい	他職種に補助してほしい	現行のままでよい	何とも言えない
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>【選択肢】</b>                      1: 負担が非常に小さい                      2: 負担が小さい                      3: どちらともいえない                      4: 負担が大きい                      5: 負担が非常に大きい                      9: 実施していない                 </div> 該当番号を記入								
(記入例) 3) 留置針によるルート確保	4	1	2	3	→	1	2	3	4
1) 採血		1	2	3	→	1	2	3	4
2) 静脈注射		1	2	3	→	1	2	3	4
3) 留置針によるルート確保		1	2	3	→	1	2	3	4
4) 診断書、診療記録及び処方せんの記載		1	2	3	→	1	2	3	4
5) 主治医意見書の記載		1	2	3	→	1	2	3	4
6) 診察や検査等の予約オーダーリングシステム入力や電子カルテ入力		1	2	3	→	1	2	3	4
7) 救急医療等における診療の優先順位の決定(トリアージの実施)		1	2	3	→	1	2	3	4
8) 検査の手順や入院の説明		1	2	3	→	1	2	3	4
9) 慢性疾患患者への療養生活等の説明		1	2	3	→	1	2	3	4
10) 診察前の事前の面談による情報収集や補足的な説明		1	2	3	→	1	2	3	4
11) 患者の退院に係る調整業務		1	2	3	→	1	2	3	4
12) 患者に対する処方薬の説明		1	2	3	→	1	2	3	4
13) 医薬品の副作用・効果の確認		1	2	3	→	1	2	3	4
14) 患者に対する検査結果の説明		1	2	3	→	1	2	3	4

③上記②の業務の他に、あなたが負担に感じている業務で、医師以外の職員と役割分担ができる業務がありましたら、お書きください。

4. 他職種との連携の状況やあなたのお考え等についてお伺いします。

①あなたが主に勤務する病棟では、薬剤師が病棟に配置されていますか。 ※○は1つだけ

- 1. 配置されている
- 2. 配置されていない (→4ページの質問②へ)

①-1 配置されている場合の状況	(1) 病棟における薬剤師の関与の状況			(2) 医師の負担軽減及び医療の質の向上への効果 (薬剤師が関与している場合のみお答えください)					
	主に薬剤師が関与	時々薬剤師が関与	薬剤師は関与しない	とても効果がある	効果がある	いえない	どちらとも	あまり効果がない	効果がない
1) 患者からの情報収集 (投薬歴、持参薬など)	1	2	3	1	2	3	4	5	
2) 医師への処方や服薬計画等の提案	1	2	3	1	2	3	4	5	
3) 患者に対する処方薬の説明	1	2	3	1	2	3	4	5	
4) 医薬品の副作用・効果等の確認	1	2	3	1	2	3	4	5	
5) 退院時の薬剤情報管理指導	1	2	3	1	2	3	4	5	

②平成 28 年 4 月以降、周術期口腔機能管理の必要性を感じ、歯科医師と連携していますか。 ※○は 1 つだけ

- 01. 院内の歯科医師と連携し、周術期口腔機能管理に関する診療情報提供を行っている
- 02. 院外の地域の歯科医師と連携し、周術期口腔機能管理に関する診療情報提供を行っている
- 03. 院内の歯科医師と連携して歯科治療の依頼などは行っているが、周術期口腔機能管理に関する情報提供は行っていない
- 04. 院外の歯科医師と連携して歯科治療の依頼などは行っているが、周術期口腔機能管理に関する情報提供は行っていない
- 05. 歯科医師と連携していないが、連携体制の整備は必要と考えている
- 06. 歯科医師と連携しておらず、特に必要性も感じていない

【上記②で院内又は院外の歯科医師と連携している (01 または 02 を回答) 方にお伺いします】

②-1 歯科医師との連携の効果として期待していることは何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

- 01. 挿管時の歯に関するトラブルの予防
- 02. 患者の状態に応じた専門的な口腔衛生管理・口腔機能管理
- 03. 口腔内の感染源の除去 (感染管理)
- 04. 咀嚼機能、摂食嚥下機能の評価
- 05. 術後の絶食期間の短縮
- 06. 化学療法、放射線療法等による口腔内不快症状への対応
- 07. 看護師等に対する、患者個別の口腔清掃・口腔衛生管理方法の指導や情報提供等
- 08. その他 (具体的に )

【上記②で歯科医師と連携していない方にお伺いします】

②-2 歯科医師と連携していない理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

- 01. 周術期口腔機能管理料についてよく知らないから
- 02. 歯科医療機関連携加算についてよく知らないから
- 03. クリニカルパスに歯科との連携が組み込まれていないから
- 04. 歯科医師との情報共有が困難だから
- 05. これまでに歯科医師の受入れ実績がなく、歯科医師の受入れ態勢が確保できていないから
- 06. 周術期口腔機能管理で実施する内容や効果が不明であるから
- 07. 周術期口腔機能管理を実施できる歯科医療機関の情報がないから
- 08. その他 (具体的に )

③平成 28 年 4 月以降、栄養サポートチームにおいて歯科医師と連携していますか。 ※〇は1つだけ

- 01. 院内の歯科医師が参加し、栄養サポートチームによる取組を行っている
- 02. 院外の地域の歯科医師が参加し、栄養サポートチームによる取組を行っている
- 03. 歯科治療の依頼などは行っているが、栄養サポートチームに歯科医師は参加していない
- 04. 歯科医師と連携していないが、栄養サポートチームによる取組を行っている
- 05. 栄養サポートチームによる取組を行っていない

【上記③で院内又は院外の歯科医師と連携している（01 または 02 を回答）方にお伺いします】

③-1 歯科医師との連携の効果として期待していることは何ですか。 ※あてはまる番号すべてに〇

- 01. 患者の状態に応じた専門的な口腔衛生管理・口腔機能管理
- 02. 口腔内の感染源の除去（感染管理）
- 03. 咀嚼機能、摂食嚥下機能の評価
- 04. 看護師等に対する、患者個別の口腔清掃・口腔衛生管理方法の指導や情報提供等
- 05. その他（具体的に )

【上記③で歯科医師が参加していない方にお伺いします】

③-2 歯科医師と連携していない理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに〇

- 01. 栄養サポートチーム加算についてよく知らないから
- 02. 栄養サポートチーム加算の歯科医師連携加算についてよく知らないから
- 03. クリニカルパスに歯科との連携が組み込まれていないから
- 04. 歯科医師との情報共有が困難だから
- 05. これまでに歯科医師の受入れ実績がなく、歯科医師の受入れ態勢が確保できていないから
- 06. 栄養サポートチームに参加できる歯科医療機関の情報がないから
- 07. 特に歯科医師との連携について必要性を感じないから
- 08. その他（具体的に )

5. あなたの勤務状況に関するご意見等をお伺いします。

①あなたの現在の勤務状況についてどのようにお考えですか。 ※最も近いものに〇は1つだけ

- 1. 改善の必要性が高い
- 2. 改善の必要性がある
- 3. 現状のままでよい
- 4. その他（具体的に )

【上記①で「1.改善の必要性が高い」「2.改善の必要性がある」と回答した方】

①-1 勤務状況について「1.改善の必要性が高い」または「2.改善の必要性がある」と回答した最大の理由は何ですか。 ※〇は1つだけ

- 1. 医師の過重勤務により患者が不利益を被る可能性があるため
- 2. 業務を継続していけるか不安があるため
- 3. 過重勤務により身体的・精神的疾患を患う（患った）ため
- 4. 給与が業務量に比べて低いと感じるため
- 5. 育児休暇等のワークライフバランスがとれていないため
- 6. 特に問題はないが、勤務医負担軽減策を行うことで更に勤務状況の改善が見込めるため
- 7. その他（具体的に )

②どのような取組が病院で行われれば、医師の負担を軽減することができると思いますか。

Blank box for response to question ②.

質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。



※以下の質問⑨～⑫は一般病棟の方のみご回答ください。それ以外の病棟の方は2ページの2. ①へお進みください。

<p>⑨急性期看護補助体制加算</p> <p>※〇は1つだけ</p> <p>※7対1又は10対1入院基本料を算定する病棟のみ</p>	<p>01. 25対1 (看護補助者5割以上)      02. 25対1 (看護補助者5割未満)</p> <p>03. 50対1      04. 75対1</p> <p>05. 届出をしていない</p> <p>→ { a) 届出の予定 (01 予定あり      02 予定なし)</p> <p>      b) 届出をしていない理由 (※〇はいくつでも)</p> <p>      (01 職員確保が困難      02 必要性がない      03 その他 (      ))</p>
<p>⑩夜間急性期看護補助体制加算</p> <p>※〇は1つだけ</p> <p>※急性期看護補助体制加算を算定する病棟のみ</p>	<p>01. 30対1      02. 50対1      03. 100対1</p> <p>04. 届出をしていない</p> <p>→ { a) 届出の予定 (01 予定あり      02 予定なし)</p> <p>      b) 届出をしていない理由 (※〇はいくつでも)</p> <p>      (01 職員確保が困難      02 必要性がない      03 その他 (      ))</p>
<p>⑪夜間看護体制加算      ※〇は1つだけ</p>	<p>01. 算定あり      02. 算定なし</p>
<p>⑫看護職員夜間配置加算</p> <p>※〇は1つだけ</p>	<p>01. 12対1の「1」      02. 12対1の「2」      03. 16対1</p> <p>04. なし</p> <p>→ { a) 届出の予定 (01 予定あり      02 予定なし)</p> <p>      b) 届出をしていない理由 (※〇はいくつでも)</p> <p>      (01 職員確保が困難      02 必要性がない      03 その他 (      ))</p>

## 2. 貴病棟における看護職員・看護補助者の勤務状況等についてお伺いします。

<p>①貴病棟における看護職員<sup>注1</sup>の勤務形態</p> <p>※あてはまる番号すべてに〇</p>	<p>01. 2交代制<sup>注2</sup></p> <p>04. 変則3交代制<sup>注5</sup></p> <p>07. 夜勤のみ</p>	<p>02. 変則2交代制<sup>注3</sup></p> <p>05. 上記01～04の混合</p> <p>08. その他 (具体的に</p>	<p>03. 3交代制<sup>注4</sup></p> <p>06. 日勤のみ</p> <p>)</p>
--	---	---	---

注1. 看護職員：看護師、保健師、助産師、准看護師を指します。

注2. 2交代制：日勤・夜勤が12時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務。

注3. 変則2交代制：日勤8時間、夜勤16時間といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

注4. 3交代制：日勤・準夜勤・深夜勤が8時間ずつの交代勤務。

注5. 変則3交代制：日勤9時間、準夜勤7時間、深夜勤8時間といった日勤・準夜勤・深夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

②貴病棟に配置されている職員数 (※夜勤専従者は除く)	平成27年10月		平成28年10月	
	常勤	非常勤 (常勤換算 <sup>注6</sup> )	常勤	非常勤 (常勤換算 <sup>注6</sup> )
1) 看護師数	人	人	人	人
2) 准看護師数	人	人	人	人
3) 看護補助者数	人	人	人	人

③看護職員 <sup>注1</sup> の勤務時間等 (※夜勤専従者は除く)	平成27年10月		平成28年10月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1) 1人あたり平均勤務時間 <sup>注7</sup> /月	時間	時間	時間	時間
2) 1人あたり平均夜勤時間 <sup>注8</sup> /月	時間	時間	時間	時間
3) (最小値 <sup>注9</sup> ) 夜勤時間/月	時間	時間	時間	時間
4) (最大値 <sup>注9</sup> ) 夜勤時間/月	時間	時間	時間	時間

注6. 常勤換算：貴施設の1週間の所定勤務時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第1位まで(第2位を切り捨て)ご記入ください。

例：1週間の所定勤務時間が40時間の病院で、週4日(各日5時間)勤務の看護職員が1人いる場合：(4日×5時間×1人)÷40時間

注7. 平均勤務時間：実際に勤務した時間です。残業時間も含まれます。

注8. 平均夜勤時間：延べ夜勤時間数÷夜勤従事者の合計数(※夜勤従事者=夜勤時間帯に病棟で勤務する時間÷夜勤時間帯に病院内(病棟+病棟外)で勤務する時間)。なお、次の該当者は計算から除外してください。a) 夜勤専従者(専ら夜勤時間帯に従事する者)、b) 7対1入院基本料病棟及び10対1入院基本料の病棟の場合は月夜勤時間数が16時間未満及び短時間制職員で月夜勤時間数が12時間未満の者、c) 7対1入院基本料病棟及び10対1入院基本料の病棟以外の病棟の場合は、月夜勤時間数が8時間未満の者。

注9. (最小値)夜勤時間/月：貴病棟で1か月の夜勤時間が最も短かった看護職員の夜勤時間をご記入ください。夜勤に従事していない人は除いてください。(最大値)夜勤時間/月：貴病棟で1か月の夜勤時間が最も長かった看護職員の夜勤時間をご記入ください。

④貴病棟に配置されている 看護職員の夜勤専従者数(実人数)	平成27年10月		平成28年10月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1) 看護師数	人	人	人	人
2) 准看護師数	人	人	人	人

⑤看護職員 <sup>注1</sup> の夜勤専従者の 勤務時間等	平成27年10月		平成28年10月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1) 1人あたり平均勤務時間 <sup>注7</sup> /月	時間	時間	時間	時間
2) 1人あたり平均夜勤時間 <sup>注8</sup> /月	時間	時間	時間	時間
3) (最小値 <sup>注10</sup> ) 夜勤時間/月	時間	時間	時間	時間
4) (最大値 <sup>注10</sup> ) 夜勤時間/月	時間	時間	時間	時間

注10. (最小値) 夜勤時間/月: 貴病棟で1か月の夜勤時間が最も短かった看護職員の夜勤専従者の夜勤時間をご記入ください。  
(最大値) 夜勤時間/月: 貴病棟で1か月の夜勤時間が最も長かった看護職員の夜勤専従者の夜勤時間をご記入ください。

⑥看護職員 <sup>注1</sup> 1人あたり月平均夜勤回数	平成27年10月		平成28年10月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
2交代(変則2交代を含む)	回	回	回	回
3交代(変則3交代を含む)	1) 準夜勤	回	回	回
	2) 深夜勤	回	回	回
2交代(変則2交代を含む)と 3交代(変則3交代を含む)の混合	1) 2交代	回	回	回
	2) 3交代	回	回	回

⑦平均夜勤体制(配置人数)	看護職員 準夜帯( )人 深夜帯( )人 看護補助者 準夜帯( )人 深夜帯( )人	
⑧日勤における休憩時間 <sup>注11</sup>	看護職員( )時間( )分 看護補助者( )時間( )分	
⑨夜勤時間帯 <sup>注12</sup> ※24時間制で記入	( )時~( )時	
⑩夜勤における 休憩時間 <sup>注11</sup> および仮眠時間	2交代(変則2交代を含む)の場合 ※休憩および仮眠時間をまとめて付与している 場合は上段に回答。 ※どちらかのみ、またはそれぞれ付与の場合は 下段に回答。	休憩・仮眠( )時間( )分 休憩( )時間( )分 仮眠( )時間( )分
	3交代(変則3交代を含む)の場合 ※休憩時間のみ回答。	準夜勤:( )時間( )分 深夜勤:( )時間( )分

注11. 休憩時間: 1回の勤務にあたり貴施設の所定勤務時間において規定されている休憩時間。

注12. 夜勤時間帯: 病院で任意に設定している22時~翌5時を含む連続する16時間。

⑪平成28年度診療報酬改定の結果、貴病棟における夜勤に関する状況は改定前と比較して、どのようになりましたか。 ※○は1つだけ			
1) 夜勤時間の長さ	01. 長くなった	02. 変わらない	03. 短くなった
2) 夜勤の回数	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
3) 夜勤時の受け持ち患者数	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
4) 夜勤時の繁忙度	01. 忙しくなった	02. 変わらない	03. 余裕ができた
5) 夜勤をする者	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
6) 一部の者への夜勤の負担	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
7) 夜勤シフトの組み方	01. 改善した	02. 変わらない	03. 悪化した
8) 夜勤の72時間要件	01. 満たしやすくなった	02. 変わらない	03. 満たしにくくなった

→次ページに続きます。

9) 他部署との兼務	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
10) 短時間勤務者で夜勤時間帯に勤務する者	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った

⑫1 年前と比較して、貴病棟の看護職員の勤務状況はどのように変化しましたか。 ※○は1つだけ			
1) 勤務時間	01. 長くなった	02. 変わらない	03. 短くなった
2) 長時間連続勤務の状況	01. 長くなった	02. 変わらない	03. 短くなった
3) 有給休暇の取得状況	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
4) 総合的にみた勤務状況	01. 改善した	02. どちらかという改善した	03. 変わらない
	04. どちらかという悪化した	05. 悪化した	06. その他 ( )

### 3. 貴病棟における看護職員の負担軽減策の取組状況についてお伺いします。

①貴病棟における看護職員の負担軽減策についてお伺いします。

(1) 貴病棟で看護職員の負担軽減策として実施している取組に○をつけてください。※あてはまる番号すべてに○

(2) 上記(1)で○をつけた取組について、実施した時期としてあてはまる番号に○をつけてください。  
※それぞれ○は1つずつ

(3) 上記(1)で○をつけた取組について、看護職員の負担軽減策の効果としてあてはまる番号に○をつけてください。  
※それぞれ○は1つずつ

	(1)		(2) 実施した時期			(3) 負担軽減効果				
	取組に○	実施されている	平成 28年 3月 31日以前	平成 28年 4月 ~10月 30日	平成 28年 10月 31日時点	効果がある	どちらかといえ ば効果がある	ない どちらともいえ	どちらかといえ ば効果がない	効果がない
(記入例) 4) 夜勤専従者の雇用	④	→	1	②	3	1	②	3	4	5
1. 看護職員の配置・勤務シフト等										
1) 看護職員の増員	1	→	1	2	3	1	2	3	4	5
2) 短時間勤務の看護職員の増員	2	→	1	2	3	1	2	3	4	5
3) 夜勤時間帯の看護職員配置の増員	3	→	1	2	3	1	2	3	4	5
4) 夜勤専従者の雇用	4	→	1	2	3	1	2	3	4	5
5) 2交代・3交代制勤務の見直し(変則への移行を含む)	5	→	1	2	3	1	2	3	4	5
6) 11時間以上の勤務間隔の確保	6	→	1	2	3	1	2	3	4	5
7) 夜勤後の暦日の休日の確保	7	→	1	2	3	1	2	3	4	5
8) 夜勤の連続回数が2連続(2回まで)の設定	8	→	1	2	3	1	2	3	4	5
9) 月の夜勤回数上限の設定	9	→	1	2	3	1	2	3	4	5
10) (2交代勤務)夜勤時の仮眠時間を含む休憩時間の確保	10	→	1	2	3	1	2	3	4	5
11) (2交代勤務)16時間未満となる夜勤時間の設定	11	→	1	2	3	1	2	3	4	5
12) (3交代勤務)日勤深夜、準夜日勤のシフトの回避	12	→	1	2	3	1	2	3	4	5
13) (3交代勤務)正循環の交代周期の確保	13	→	1	2	3	1	2	3	4	5
14) 早出や遅出などの看護ニーズに応じた勤務の導入・活用	14	→	1	2	3	1	2	3	4	5

	(1)		(2) 実施した時期			(3) 負担軽減効果				
	取組に○	実施されている	平成 28年 3月 31日以前	平成 28年 4月 ~10月 30日	平成 28年 10月 31日時点	効果がある	どちらかといえ ば効果がある	ない どちらともい え	どちらかとい え ば効果がない	効果がない
(記入例) 4) 夜勤専従者の雇用	④	→	1	②	3	1	②	3	4	5
15) 当直明けの勤務者に対する配慮	15	→	1	2	3	1	2	3	4	5
16) 残業が発生しないような業務量の調整	16	→	1	2	3	1	2	3	4	5
17) 夜間を含めた各部署の業務量を把握・調整するシステムの構築	17	→	1	2	3	1	2	3	4	5
18) 夜間院内保育所の設置	18		1	2	3	1	2	3	4	5
19) 勤務時間内の委員会※開催	19	→	1	2	3	1	2	3	4	5
20) メンタルヘルス対策の実施	20	→	1	2	3	1	2	3	4	5
21) 電子カルテ又はオーダーリングシステムの活用	21	→	1	2	3	1	2	3	4	5
2. 看護補助者の配置等										
22) 看護補助者との業務分担	22	→	1	2	3	1	2	3	4	5
23) 看護補助者の増員	23	→	1	2	3	1	2	3	4	5
24) 早出や遅出の看護補助者の配置	24	→	1	2	3	1	2	3	4	5
25) 夜勤時間帯の看護補助者の配置	25	→	1	2	3	1	2	3	4	5
26) 病棟クラークの配置	26	→	1	2	3	1	2	3	4	5
3. 他職種との業務分担等										
27) 理学療法士との業務分担	27	→	1	2	3	1	2	3	4	5
28) 作業療法士との業務負担	28	→	1	2	3	1	2	3	4	5
29) 言語聴覚士との業務分担	29	→	1	2	3	1	2	3	4	5
30) 臨床検査技師との業務分担	30	→	1	2	3	1	2	3	4	5
31) 臨床工学技士との業務分担	31	→	1	2	3	1	2	3	4	5
32) MSW又はPSWとの業務分担	32	→	1	2	3	1	2	3	4	5
33) 薬剤師の病棟配置	33	→	1	2	3	1	2	3	4	5

※入院基本料の施設基準の「院内感染防止対策に関する基準」「医療安全管理体制に関する基準」「褥瘡対策の基準」を満たすための委員会  
は除きます。

②上記①以外の取組で看護職員の負担軽減に効果のある取組があればご記入ください。

#### 4. あなたの勤務する病棟での他職種との連携状況等についてお伺いします。

①あなたが勤務する病棟に看護補助者が配置されていますか。※○は1つだけ

01. 配置されている (→7ページの質問①-1へ) 02. 配置されていない (→7ページの質問②へ)

①-1 看護補助者に対する教育体制とその運用状況としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

01. 教育プログラムが構築されている

→実施方法・実施時期 ※あてはまる番号すべてに○

方法：01. 院内の集合研修（合計 時間） 02. OJT 03. その他（ ）  
 時期：01. 入職時に実施 02. 決まった時期に定期的実施 03. その他（ ）

02. 教育を担当する人材が確保されている

03. 教育体制の評価、見直しが行われている

04. 特に教育体制は整備されていない

05. その他（ ）

①-2 看護補助者の教育に関する課題としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

01. 教育プログラムの構築が困難

02. 教育を担当する人材の確保が困難

03. 業務多忙等により、研修時間を確保できない

04. 知識・技術の習得に時間を要する

05. その他（ ）

06. 課題は特にない

①-3 以下の業務について貴病棟の状況をそれぞれご回答ください。

	(1) 業務負担感	(2) 看護補助者との業務分担状況(※最も近いもの1つに○)			(3) 看護補助者が各業務を実施する場合(完全委譲・部分委譲・協働も含む)の看護職員の負担軽減上の効果(※最も近いもの1つに○) ※既に看護補助者が実施している場合もお答えください。				
		看護補助者が主に担当	看護職員と看護補助者の協働	看護職員が主に担当	とても効果がある	効果がある	どちらともいえない	あまり効果がない	まったく効果がない
	<b>【選択肢】</b> 1：負担が非常に小さい 2：負担が小さい 3：どちらともいえない 4：負担が大きい 5：負担が非常に大きい 9：実施していない 該当番号を記入								
1) 食事介助		1	2	3	1	2	3	4	5
2) 配下膳		1	2	3	1	2	3	4	5
3) 排泄介助		1	2	3	1	2	3	4	5
4) おむつ交換等		1	2	3	1	2	3	4	5
5) 体位変換		1	2	3	1	2	3	4	5
6) 移乗(車椅子、ベッド等)		1	2	3	1	2	3	4	5
7) 寝具やリネンの交換、ベッド作成		1	2	3	1	2	3	4	5
8) 清潔・整容(清拭、陰部洗浄、口腔の清拭等、入浴介助等)		1	2	3	1	2	3	4	5
9) 患者の病棟外への送迎(検査、リハビリ等)		1	2	3	1	2	3	4	5
10) 入院案内(オリエンテーション等)		1	2	3	1	2	3	4	5
11) 日中の患者のADLや行動の見守り・付添(認知症や高次機能障害等)		1	2	3	1	2	3	4	5
12) 夜間の患者のADLや行動の見守り・付添(認知症や高次機能障害等)		1	2	3	1	2	3	4	5
13) 事務的業務 <sup>注13</sup>		1	2	3	1	2	3	4	5
14) 物品搬送		1	2	3	1	2	3	4	5
15) 医療材料等の物品の補充、準備、点検		1	2	3	1	2	3	4	5
16) 環境整備		1	2	3	1	2	3	4	5

注13. 事務的業務：カルテ整理、書類の取扱い、検査処置伝票の取扱い、レントゲンフィルムの整理、案内電話対応、コンピュータ入力等。

①-4 看護補助者に業務を委譲（完全・部分）したことで、看護職員はどのような業務の時間を増やすことができましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

- |                         |                |                      |
|-------------------------|----------------|----------------------|
| 01. 入院患者に対する観察頻度の増加     | 02. 看護計画作成・評価  | 03. 医療処置             |
| 04. カンファレンスの実施          | 05. 早期離床に関する支援 |                      |
| 06. 生活リハビリテーション         | 07. 退院に向けた支援   |                      |
| 08. 他職種との協働（計画作成・介入・評価） |                | 09. 地域連携             |
| 10. 看護記録                | 11. ベッドサイドでのケア | 12. 患者、家族とのコミュニケーション |
| 13. その他（具体的に            |                | ）                    |

【すべての方にお伺いします】

② 貴病棟には、薬剤師が病棟配置されていますか。 ※○は1つだけ

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 01. 配置されている | 02. 配置されていない（→質問③へ） |
|-------------|---------------------|

②-1 病棟薬剤師が担っている業務、薬剤師と連携して実施している業務は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

- |                                      |                       |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 01. 持参薬の管理                           | 02. 効果・副作用等の確認        |
| 03. 薬剤師と共にカンファレンスや回診への参加             | 04. 患者等への薬剤に関する説明等の実施 |
| 05. 配薬                               | 06. 薬剤のミキシング（抗がん剤を除く） |
| 07. 抗がん剤のミキシング                       | 08. 病棟配置薬の管理          |
| 09. 薬物療法（注射や輸液等の準備・実施・管理、薬剤の投与量の調整等） |                       |
| 10. 退院患者の薬剤指導                        |                       |
| 11. その他（具体的に                         | ）                     |

②-2 病棟薬剤師の配置による効果としてあてはまる番号に○をつけてください。 ※あてはまる番号すべてに○

- |                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 01. 看護職員の薬剤関連業務の負担が軽減した           |   |
| 02. 速やかに必要な情報を把握できるようになった         |   |
| 03. 薬剤関連のインシデントが減少した              |   |
| 04. 服薬支援がより適切に行われるようになった          |   |
| 05. 病棟職員の薬物療法・服薬指導に対する理解・スキルが向上した |   |
| 06. 患者の直接ケア時間が増えた                 |   |
| 07. 効果が実感できない                     |   |
| 08. その他（具体的に                      | ） |

【すべての方にお伺いします】

③ 貴病棟における、歯科医師・歯科衛生士との連携状況はどのようになっていますか。 ※あてはまる番号すべてに○

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 01. 歯科医師・歯科衛生士と共にカンファレンスや回診への参加  |   |
| 02. 入院患者への口腔ケアの実施                |   |
| 03. 退院に向けた患者・家族に対する口腔ケアに関する指導の実施 |   |
| 04. その他（具体的に                     | ） |
| 05. 連携していない（→8ページの質問5. ①へ）       |   |

8ページの質問③-1へ

【上記③で01~04を回答した方にお伺いします】

③-1 歯科医師・歯科衛生士との連携による効果としてあてはまる番号に○をつけてください。

※あてはまる番号すべてに○

- 01. 口腔清掃等の方法に対する理解が向上した（知識を得ることができた）
- 02. 周術期口腔機能管理に対する理解が向上した
- 03. 摂食嚥下リハビリテーションに対する理解が向上した
- 04. 食形態の検討に役立った
- 05. 口腔状態のアセスメントをより適切に行うことができるようになった
- 06. 患者の個別の状態にあわせ、より適切な口腔清掃を行うことができるようになった
- 07. 患者の個別の状態にあわせ、より適切な摂食嚥下リハビリテーションを行うことができるようになった
- 08. 患者の個別の状態にあわせ、より適切な食事介助を行うことができるようになった
- 09. 特に効果が実感できない
- 10. その他（具体的に

5. 看護職員の負担軽減策に関するご意見についてお伺いします。

①貴病棟における、看護職員の負担軽減に関する現在の取組についてどのように評価していますか。※○は1つだけ

- 01. 十分である
- 02. どちらかといえば十分である
- 03. どちらかといえば不十分である
- 04. 不十分である

②今後、どのような取組をすれば、看護職員の業務負担の軽減が図られると思いますか。※あてはまる番号すべてに○

- 01. 臨床検査技師による採血・検体採取介助
- 02. 臨床検査技師による検査前後の説明や結果の管理等
- 03. リハビリ職による食事介助
- 04. 歯科専門職による専門的な口腔ケア
- 05. 介護福祉士による日常生活援助・見守り
- 06. 多職種間による記録の一元化
- 07. 記録の簡素化
- 08. その他（具体的に

③貴病棟における看護職員の勤務状況や負担軽減に関する今後の課題等があればご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）  
 夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の  
 負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査 薬剤部責任者票（案）

- 特に指定がある場合を除いて、平成 28 年 10 月 31 日現在の状況についてお答えください。
- 数値を記入する設問で、該当するものがない場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。

1. 貴施設の概要等についてお伺いします。

①貴施設における、平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月 1 か月間の処方せん枚数をご記入ください		
	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1) 外来の院外処方せん	枚	枚
2) 外来の院内処方せん	枚	枚
3) 入院患者の処方せん	枚	枚

②インシデント数（平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月の 1 か月間）の件数をご記入ください。		
	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1) 貴施設におけるレベル 2 <sup>注1</sup> 以上のインシデント数	件	件
2) 上記 1) のうち、薬剤に関するインシデント数	件	件
3) 上記 2) のうち、療養病棟・精神病棟のインシデント数	件	件
4) 上記 2) のうち、集中治療室等 <sup>注2</sup> のインシデント数	件	件

注 1. レベル 2：国立大学附属病院医療安全管理協議会の影響レベルを指します。

注 2. 集中治療室等：救命救急入院料、特定集中治療室管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料又は総合周産期特定集中治療室管理料を算定する治療室を指します。

③貴施設における 1) 病棟数、2) 薬剤師が配置されている病棟数についてご記入ください。 ※病棟薬剤業務実施加算を算定していない場合もすべて含めて記入してください。		
	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1) 貴施設における全病棟数	病棟	病棟
2) 上記 1) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	病棟	病棟
3) 療養病棟・精神病棟の病棟数	病棟	病棟
4) 上記 3) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	病棟	病棟
5) 集中治療室等 <sup>注2</sup> の病棟数	病棟	病棟
6) 上記 5) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	病棟	病棟

④各病棟に配置されている薬剤師数（常勤換算） <sup>注3</sup> は何人ですか。		
	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1) 病棟専任の薬剤師数	人	人
2) 上記 1) のうち、療養病棟・精神病棟に配置されている薬剤師数	人	人
3) 上記 1) のうち、集中治療室等 <sup>注2</sup> に配置されている薬剤師数	人	人

注 3. 非常勤職員の常勤換算の計算方法：貴施設の 1 週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第 1 位までで  
 ご記入ください。常勤職員は実人数のままで結構です。

例：1 週間の所定勤務時間が 40 時間の病院で、週 4 日（各日 5 時間）勤務の非常勤職員が 1 人いる場合  
 非常勤職員数（常勤換算）＝（5 時間×4 日×1 人）÷40 時間（週所定労働時間）＝0.5 人



【上記②で「1.届出をしている」と回答した施設の方】

②-2 貴施設では療養病棟・精神病棟で病棟薬剤業務を実施していますか。※〇は1つだけ

- 1. 実施している病棟がある
- 2. 実施していない(当該病棟がない場合も含む) (→質問②-3へ)

【上記②-2で「1.実施している病棟がある」と回答した施設の方】

②-2-1 貴施設では、9週日以降も療養病棟・精神病棟で病棟薬剤業務を実施していますか。※〇は1つだけ

- 1. 実施している
- 2. 実施していない (→質問②-3へ)

【上記②-2-1で「1.実施している」と回答した施設の方】

②-2-1-1 9週日以降も療養病棟・精神病棟で病棟薬剤業務が必要と思いますか。※〇は1つだけ

- 1. 必要と思う
- 2. 薬剤によっては必要と思う
- 3. 医師の依頼(同意)がある場合のみでよいと思う
- 4. 必要ないと思う
- 5. その他(具体的に )

【上記②-2-1で「1.実施している」と回答した施設の方】

②-2-1-2 9週日以降に病棟薬剤業務を実施することでどのような効果がありましたか。

※あてはまる番号すべてに〇

- 1. 患者の薬に関する理解とアドヒアランスが向上した
- 2. 医師の業務負担が軽減した
- 3. 看護職員の業務負担が軽減した
- 4. 薬剤関連のインシデントが減少した
- 5. 薬剤種類数が減少した
- 6. 医薬品費が減少した(後発医薬品の使用促進を含む)
- 7. 副作用の回避・軽減や病状の安定化が速やかに得られるようになった
- 8. 在院日数が減少した
- 9. 外来通院や在宅での薬物治療に移行できる割合が高まった
- 10. その他(具体的に )

【上記②で「1.届出をしている」と回答した施設の方】

②-3 貴施設では、病棟薬剤業務実施加算2の施設基準の届出をしていますか。※〇は1つだけ

- 1. 届出をしている
- 2. 届出をしていない (→4ページの質問②-3-3へ)

【上記②-3で「1.届出をしている」と回答した施設の方】

②-3-1 病棟薬剤業務実施加算2として、どこに薬剤師を配置していますか。※あてはまる番号すべてに〇

- 1. 救命救急入院科
- 2. 特定集中治療室管理料
- 3. 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 4. 小児特定集中治療室管理料
- 5. 新生児特定集中治療室管理料
- 6. 総合周産期特定集中治療室管理料

【上記②-3で「1.届出をしている」と回答した施設の方】

②-3-2 病棟薬剤業務実施加算2を実施する体制をとることによってどのような効果がありましたか。

※あてはまる番号すべてに〇

- 1. 集中治療室等から一般病棟等への薬に係る連携・移行がスムーズになった
- 2. 医師・看護師の業務負担が軽減した
- 3. 副作用の回避・軽減や、病状の安定化に寄与した
- 4. 薬剤関連のインシデントが減少した
- 5. 処方提案の件数が増加した
- 6. その他(具体的に )

【上記②-3で「2.届出をしていない」と回答した施設の方】

②-3-3 病棟薬剤業務実施加算2の施設基準の届出をしていないのはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 算定対象病棟がないため
2. 薬剤師の人数が不足しているため
3. 病棟以外（調剤・製剤、外来化学療法、手術室など）の業務負担が大きいため
4. 病棟専任薬剤師による病棟業務の実施時間が週20時間に満たないため
5. 薬剤管理指導以外の病棟薬剤業務のニーズが少ないため
6. その他（具体的に )

質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。